

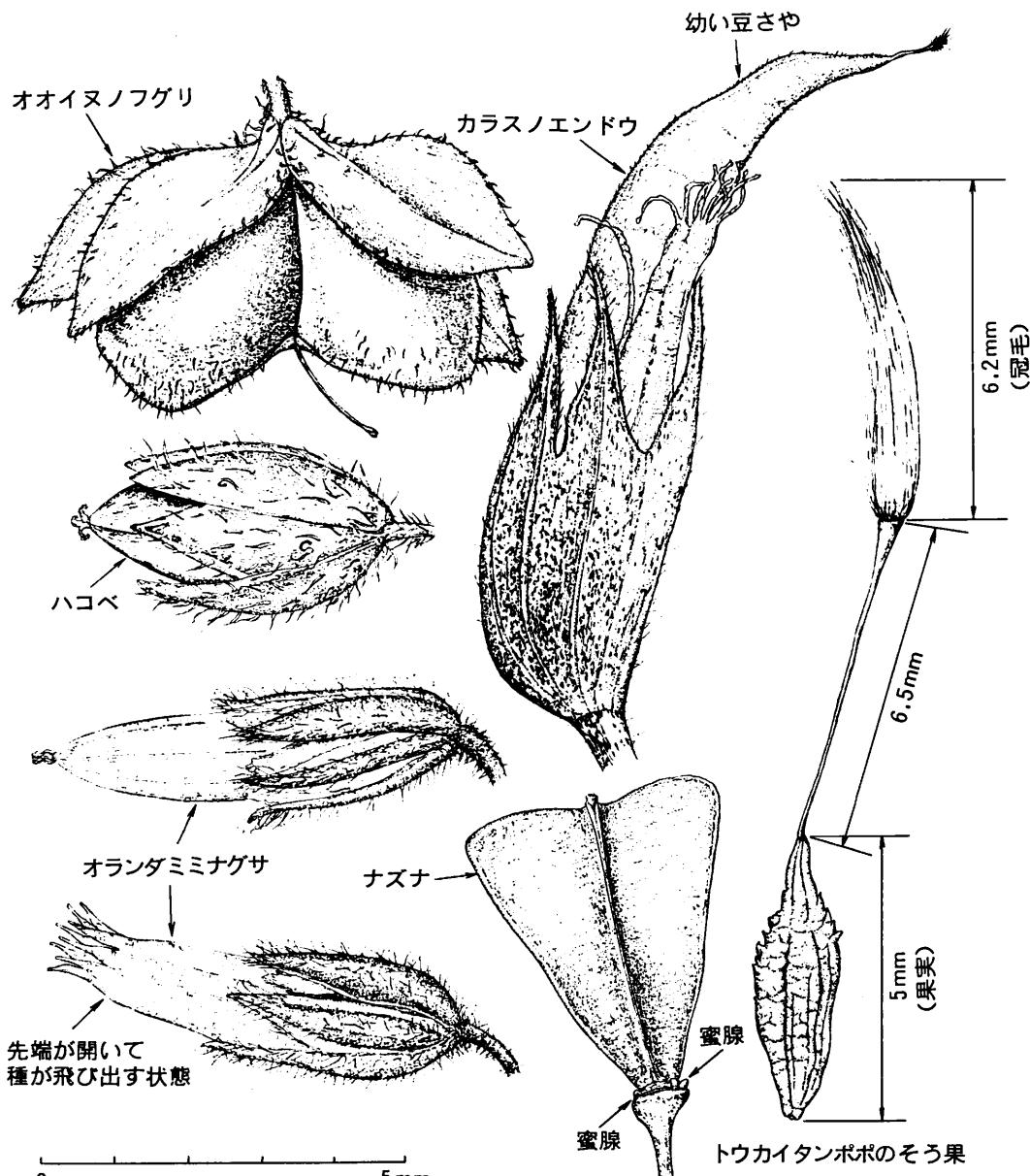
# 協議会ニュース

21号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

63.4

## 春草果実その姿



○1988・4・1 安城町大山にて

## 季節の話題

### 堇(すみれ)

スミレの語源は墨入れで、古くから大工道具として使われてきた墨壺に由来するといわれています。花の形が墨壺に似ているからなのでしょう。

また、現在使われている漢字「堇」は、中国ではセリのことだそうです。奈良時代に編集された万葉集には「須美礼」となっています。まだ独自の漢字ではなく、万葉仮名をあてはめているようです。万葉集第8巻にあるスミレを呼んだ歌2首を紹介します。

### 萬葉集卷第八 春雜歌

#### 山部宿弥赤人歌四首

1424 春野尔 須美礼採尔等 来師吾曾  
野乎奈都可之美 一夜宿二来  
スミレを摘もうとして春の野原に来  
たけれど、野原に心がひかれてしまっ  
て、一晩泊ってしまったことでした。

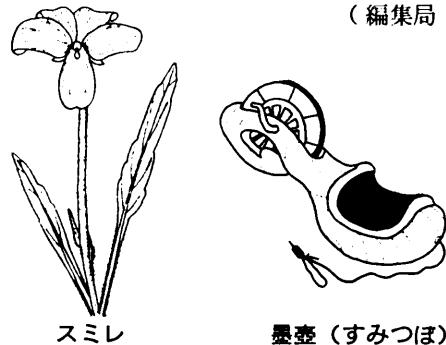
### 高田女王歌一首

1444 山振之 咲有野邊乃 都保須美礼  
此春之雨尔 盛奈里鶴利

ヤマブキが咲いている野山で見つけたスミレは、春の雨に濡れながらも、今が盛りとばかりに咲き誇っていました。

ここに登場する「須美礼」と「都保須美礼」が、現在のどの種類に相当するのか、自然観察指導員風に想像してみるのも「いとをかし」。

(編集局)



## 協議会ニュース21号目次

- ・春草果実その姿 ..... (辻 伸夫) ..... 表紙
- ・季節の話題 すみれ ..... (編集局) ..... 1
- ・表紙のことば ..... (辻 伸夫) ..... 1
- ・会員紹介⑥人とハチのコンタクトポイント(渡並喜一郎) ..... 2
- ・特集 ヒメボタル ..... (大竹 勝&北岡明彦) ..... 3
- ・マイ・ウォッキング  
三好ヶ丘団地造成予定地の昆虫 ..... (加納貞夫) ..... 6
- ・参加者大募集!  
新しくスタートする調査の概要 ..... (運営委員会) ..... 7
- ・会員広場 ..... (佐野 滋・滝崎吉伸・佐藤国彦) ..... 9
- ・観察あれこれ ..... (編集局) ..... 10
- ・支部だより ..... 11
- ・協議会活動報告 ..... 13
- ・行事案内 ..... 15
- ・お知らせ ..... 15

### 畔は花盛り

4月は田畑の畔がとっても美しい季節です。春を待ち焦がれていた草たちがいっせいに活動を始め今、その花の季節を迎えたからです。みなさんも道端や畔をごらんになって下さい。小さな草にも蕾から花へ、そして種が育っている姿までも一緒に見ることができます。種類によってその種を入れる袋は、面白い形をしています。

見過ごしてしまいそうな小さな草たちの生活ですが、その生き方は真剣です。そんな姿を見るためルーペを持って野原へ出かけてみましょう。

(西三河支部 辻 伸夫)

# 人とハチのコンタクトポイント

渡並喜一郎（編集委員長）



名作は多くの人の心に感動を与え、次の行動を触発させます。ファーブル、シートン、ウィリアム・M・ホィーラー、ジェラルド・ダレル & リー・ダレルの著

書は、私にことごとく感動を与え、そして私を玄関の外へ押し出させた人たちです。

## 昆虫たち

昆虫観察の楽しさ・おもしろさは、虫たちの形や生態を本から学ぶことも一つの方法です。が、野外で直接昆虫と接し見ることは、名作に優るとも劣らない感動を与えてくれます。また、人と昆虫といった距離を一度に縮めてしまう、有効な働きかけがあるように思います。

人間である私に向か働きかけの速度を更に加速し、その距離（私と昆虫）を縮めた昆虫たちがいます。ジガバチ・クロアナバチ・クマバチ・トックリバチたちがそうです。

これらのハチたちは皆それぞれに、強い個性を持っています。ジガバチは小気味いいキビキビした動きと逞しい行動力、クロアナバチは荒々しさと恐るべき馬力、クマバチは巧みの技術とやしさ・きびしさを兼備えた母性本能があります。トックリバチは塑像の壺作りにかけては一級品の腕前の持主です。少し褒めすぎましたが、参考までに壺の大きさなどを書いておきます。

壺の大きさは縦の長さ約15mm、横の太さ（最大径）約14mmでほぼ丸形です。壺の製作時間約3時間半、使用土玉約40個、壺の厚さ約0.6～1mmです。又、ハチが土採取現場へ飛び、土玉を混ぜて作業現場へ戻るまでの時間は約2～3分です。

次に壺の作り方です。

土玉を上顎で銜之後脚は足場がわにしっかりと固定します。前脚は土玉を受け下から上に向けて

動かし、横方向にずらします。上顎は土玉を伸ばします。横から見ていると土玉は回転しているよう見えます。そして時計回りで底部（皿状）から、立ち上がり、ある一定の部分までは土盛りをしますが、壺が3分1程できたところで時計回りの土盛は中止され、次に上下左右のある一部へ土盛は変更されて始まります。これは壺入口の仕上がり向方を決定する為の手順変更に結びつける行動ではないかと思われます。この時ハチは触角を絶えず壺の内径の上下左右に当て動かし続けています。

こうして壺作りは完成し、すぐ卵を産みつけています。

## シロフベッコウバチ

このハチはジガバチやクロアナバチと同じように地面に穴を掘り、獲物を狩り運び、産卵します。しかし、このハチは穴掘り作業が不得意のようです。僅か3～4cmの穴しか掘りませんが、それも小手先でチョコ、チョコと土を搔き出しておしまいで、すぐに獲物狩りに出掛けていきます。そして獲物を持ち帰ります。がハチは決して獲物を手にしたからといって喜び勇んで穴へは直接運び込むようなことはしません。一度穴近くの別な所に置き、穴の様子を見てから持ち帰ります。そして産卵し、穴うめ作業に取り掛かります。その時ハチは、この穴うめ作業を先程とは別人になり実に丁寧に行います。土を穴に一層かけては尾を小さくバイブレーションさせ何度も繰返し、そして仕上げます。これはクロアナバチのブルドーザーのような穴うめ作業とは大変なちがいを見せつけます。

こうしたハチたちは人間の大きさと較べ百分の一又千分の一程の大きさしかありませんが、必ず生きる術を持合せていますし、又見せてくれます。この術を人間がどう見るか、これはその人の持つ感性と知識の範囲に限られます。また昆虫観察の楽しさやおもしろさの味わい方も同様です。

## 特 集

# ヒメボタル

大竹 勝 & 北岡明彦

旧名鉄瀬戸線大津町駅周辺の名古屋外堀でヒメボタルが大発生して大きな話題となったのは、昭和50年のことでした。ホタルといえば、水中で幼虫生活を送るゲンジボタルやヘイケボタルを想像してしまう私達を、びっくりさせました。

このヒメボタルについて、いろいろまとめてみました。

### 1 ヒメボタルとは

世界中に約2000種確認されているホタル科昆虫のうち、幼虫時代を水中で過ごす種は、わずか5~6種と言われています。また、日本には42種類が報告されていますが、水中生活するのはゲンジボタルとヘイケボタルだけです。そして、オバボタルやムネクリイロボタルのように、光らないホタルもたくさんいます。

私達日本人は、ホタルといえば水生昆虫だと思っていますが、世界のホタルの分布や生活史から考えると、彼らはもともと南方系の陸上生活者でごく一部の種が水中にまで生活圏を拡げているというのが真相のようです。

まず、日本の代表的なホタルである、ヒメボタル・ヘイケボタル・ゲンジボタルの見分け方を紹介しましょう。

こうしてみると、ヒメボタルと他の2種との違いが顕著にわかります。まとめてみると、①幼虫は陸生、②♀は飛べない、③深夜に発光飛翔するの3点になります。

人家の周辺の湿った土手や竹藪などに比較的広く分布しているヒメボタルの生息範囲が、近年まで明らかでなかったのは、発光が深夜であることと、大量発生することが少ないとされたと思われます。昭和56年~57年にかけて愛知県農地林務部自然保護課で実施したヒメボタルの分布調査の結果は下図のとおりですが、調査が進めば、まだまだ新しい産地が見つかるものと思われます。

しかし、何しろ相手は深夜族ですから、調査する方も気を使います。彼らは人家周辺の森や土手にもいますので、必然的に懐中電灯を持って深夜に民家周辺をうろつくことになります。犬山市で調査をされた大竹さんなどは、パトロール警官に職務質問されることしばしばだそうです。



ヒメボタルの県内分布（自然保护課1983）

種 名		体長 (mm)	飛翔 力	発 光	幼虫の主な餌	生活場所	発 生 時 期	発 光 飛 翔
ヒメボタル	♂	9.0	有	チカッ、チカッ	オカチョウジ ガイ類	平地から山地 までの木陰	平地 5月中旬~6月上旬 山地 6月中旬~8月上旬	深夜(12時~3時)
	♀	7.5	無	まばたき光				
ヘイケボタル	♂	10.0	有	まばたき光	モノアラガイ カワニナ タニシ	水田や小川の 周辺	6月中旬~8月下旬 最盛期は不明瞭	(7時半~9時)
	♀	12.0	有	チカー、チカー				
ゲンジボタル	♂	14.0	有	ゆっくり明滅	カワニナ	川の周辺	5月下旬~6月中旬	(7時半~9時)
	♀	21.6	有	ゆっくり明滅				

ホタル3種類のみわけかた

## 2 ヒメボタルの餌オカチョウジガイ

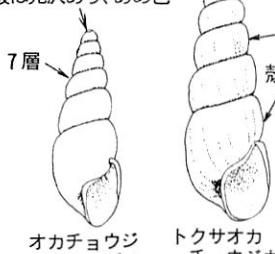
先に書いたようにヒメボタルは陸生で、その餌は主にオカチョウジガイだと言われています。

しかし、今、このオカチョウジガイの世界に異変が起きているのです。現在、愛知県には3種類のオカチョウジガイの仲間が見られます。その見分け方は、次の通りです。

種名	殻高(mm)	層数(層)	殻の特徴
オカチョウジ	10	6~7	光沢あり
トクサオカチョウジ	12	8	光沢なし
ホソオカチョウジ	8	7~8	細長い

### オカチョウジガイ属3種の見分け方

殻は光沢なし、麦わら色  
殻は光沢あり、あめ色



これら3種類のうち、トクサオカチョウジガイは帰化動物で、近年その分布を急速に拡げており、県下でも普通に見られるようになります。今後、これら3種の間での競争は激しくなるものと想像されます。

なお、オカチョウジガイ類はキセルガイ類の幼貝と似ていますが、右巻きですからすぐ区別がつきます。（キセルガイ類はすべて左巻き）

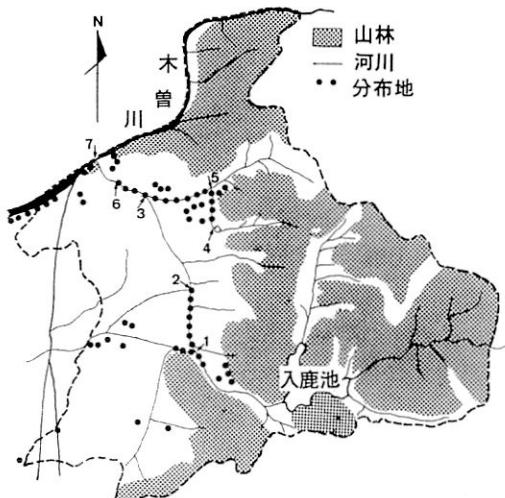
皆さんのまわりのオカチョウジガイ類の動向にも、一度目を向けて下さい。

次に、犬山市内で大竹会長がヒメボタルの分布調査をされた結果を紹介しましょう。

## 3 犬山市内のヒメボタル（尾張支部大竹勝）

ヒメボタルは、古い林や藪などに見られますが調査してみると意外に川の近くに多いことがわかりました。河原や堤防にはササや藪が多く、幼虫の食べ物のオカチョウジガイの生息に適した環境です。河川敷は今まであまり開発されなくて、一定の自然が保たれた地域でした。また、ヒメボタルはメスに翅がないため飛ぶことができませんので、分布を広げる時に河川の氾濫によることもあります。現在は堤防が完備され、かつての氾濫原は完全に分離されていますが、点状に残る平野部の分布は、そのなごりとも考えられます。

犬山市内におけるヒメボタルの分布の特徴を考

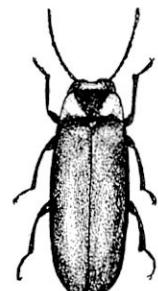


### 犬山市のヒメボタル分布

えてみました。犬山市は東が丘陵部で、西が平野部です。上図のようにヒメボタルの分布は平野部に集中します。ということは自然植生の残された地域には、平地性のヒメボタルは住まないで、人の生活圏の近くに住むといえます。市内の発生地点を調べてみると、場所がかなり限られるようです。古い川の堤防や河川敷・社寺林・断丘崖・竹藪などです。この内、市内の川沿いについて少し考えてみましょう。五条川の堤防に分布し、それから分岐した新郷瀬川(1)の半ノ木川分岐点(2)までは分布しますが、その下流は郷瀬川合流点(3)まで分布しません。郷瀬川は始点(4)から善師野川合流点(5)、新郷瀬川合流点(3)をへて、下流の天白橋(6)まで連続して分布します。天白橋から木曽川の合流点(7)までは市街地で3面をコンクリートに固められた場所で分布が見られません。

ここで注目したいのは、半ノ木川合流点(2)と郷瀬川合流点(3)の間です。生息条件としては変化がないのに分布しません。歴史を調べると、新郷瀬川は昭和8年にこの間を水路として整備したことが分かりました。ヒメボタルは55年を経過しても新しく整備された新郷瀬川への分布を広げることができなかったのです。

木曽川では川幅の広がる木津より下流の木曽川町まで連続分布していますが、グラウンドになっ



た河川敷には見られず、堤防だけ見られます。

また、市内の川から離れた生息地は、シイ・カシ林の名残りのある社寺林か、マダケやハチクの竹藪を含む林などです。同じ竹藪でもモウソウチクの藪にはヒメボタルは見られません。このことは、藪の歴史と関係があるのかも知れません。

以上、犬山市のヒメボタルについて述べましたが、まだ未調査の藪や林が多く市内の調査は十分とはいえません。先に述べた郷瀬川では現在河川改修が進行中で、この部分で今年もヒメボタルが見られるのか心配しています。

#### 4 山地型ヒメボタルの発見

ヒメボタルには、平地型と山地型があることが知られています。また、その生活場所が完全に隔離されており、形態にも差があるため、別種だとする考え方もあります。

愛知県では平地型が平野部や丘陵部の社寺林等に広く見られるのに対し、今まで山地型は確認されていませんでした。昨年、北設楽郡稻武町の面ノ木峠ブナ原生林で、山地型ヒメボタルを発見しましたので報告します。

昭和62年7月24日(金)から25日(土)にかけて、大竹さん始め8名で面ノ木峠ブナ林夜間観察会を行いましたが、自動車のヘッドライトによるライトトラップを終了した25日午前2時、発光しつつ林縁や林内を飛ぶヒメボタルを10頭余り見つけました。

発光時間は短く、ハイケボタルが「チカー・チカー」と光るとすれば、ヒメボタルは「チカッ・チカッ」という感じで、飛行速度も速いように思われました。また、群飛することなく、オノエヤナギを主とした湿性林内や林縁の草地上を極くまばらに飛んでいました。♀は確認できませんでした。

ブナ原生林のホタル見物もまた乙なものです。

#### 5 ヒメボタルの将来

日本でホタルの保護活動といえば、すべてゲンジボタルかハイケボタルです。これら2種の生活場所が日本の稲作農業に密接に関係があり古くから慣れ親しみ深かったこと、幼虫が水中生活をおくるためにホタルの存在がきれいな水のバロメーター又は象徴となることが、その原因だと思われます。



ヒメボタルの住家（名古屋城外堀）

特にゲンジボタルは環境指標生物として優れています。

一方、ヒメボタルはもっと身近に生活しているがら、一般に知られていないため、ほとんど保護の対象とされていませんでした。しかし、身近な緑地の自然度を測るうえで、ヒメボタルは重要な昆虫だと思われます。

なぜなら、ヒメボタルが発生する場所にはオカショウウジガイが豊富なはずで、そこには当然他の土壤動物も豊富でしょう。土壤動物の豊富さは、土壤の腐植質の豊かさを物語っており、それには古くからの林が不可欠となります。こんな連想ゲーム（水平思考）をしていくと、ヒメボタルが古くからの林が残されていることを示す良い環境指標になることがわかります。

また、♀が飛べなくて、種としての移動能力が極めて乏しいことからも、現在ヒメボタルが住んでいる場所は、昔からの自然が残されている所だといえましょう。

このように、都市周辺にわずかに残された林・竹藪や土手の藪に生活しているヒメボタル達は、古き良き隣人達といえます。しかし、彼らの将来は、決して明るいものではありません。こうした緑地は、どんどん宅地や裸地に姿を変えていきます。

私達は、山の中の豊かで優れた自然を残すと共に、身近で普通な自然を残していくことも考える必要があるでしょう。

# 三好ヶ丘団地造成予定地の昆虫

加納貞夫（西三河支部）

## 1 昆虫調査の動機

私が住んでいる西加茂郡三好町の北部地区は、緑豊かな丘陵地帯で、ため池が散在する、自然度の高い地域でした。しかし、昭和54年に大規模な住宅団地の造成計画がもち上りました。

そこで、自然環境が破壊される前に同地区的昆虫相を記録しておくために、56年から61年にかけて、月3回程度ずつ調査を行い、この間、のべ日数は120日に達しました。

また、家が開発区域の中にあり、近くに水銀灯が3基あるため、チョウとトンボ以外は、夜や朝に水銀灯の下で採集したものです。

## 2 調査地の自然環境

開発される以前はコナラ・アベマキを高木とする夏緑樹林で、マツクイムシによるマツの枯損が目立ちました。田畠もありましたが、開発計画がもちあがったため放置が目立ち、セイタカアワダチソウ・ススキ等が群落を作っていました。

また、農業用ため池の周囲に湿地があり、シラタマホシクサ・サギソウ・ハルリンドウ・モウセンゴケ・ヌマガヤ等が見られるなど、いろいろ変化に富んだ自然が見られました。

## 3 開発の状況

住宅・都市整備公団による住宅団地としての開発が昭和54年より始まり、昭和58年には工事を着



手し、昭和63年3月には街びらきの予定です。

このため、森林等は大部分が住宅地及び裸地にかわり、往年の緑豊かな丘陵地の面影は全くありませんが、一部の森林は保安林として残されており、わずかばかりの緑を保っています。

## 4 調査結果と考察

厳密に全数を採集した訳ではありませんので、とても同地区的昆虫相の全貌という訳にはいきませんが、12目60科157種を確認できました。

これらの昆虫の特徴をまとめてみると、次のようなことがわかります。

- ① 優良な自然環境の指標昆虫とされる、クロシデムシ・オサムシ類が見られた。
- ② 当地の代表的森林であるコナラーアベマキ林に依存する昆虫（シロスジカミキリ・カブトムシ・ミズイロオナガシジミ・アカスジアオリンガ等）が多く見られた。
- ③ 枯れたマツを食害するクロカミキリ・ムナクボカミキリ・ウバタマムシ・オオゾウムシ等が見られ、松枯れとの関係がよくわかる。
- ④ 今回得られた昆虫のうち、次の種類は、記録上重要と思われる。

- ・カブトゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）61・6・22
- ・ミツノエンマコガネ（エンマコガネ科） 61・6・18
- ・エゾカタビロオサムシ（オサムシ科） 60・7・21
- ・ウラナミジャノメ（ジャノメチョウ科） 61・6・1
- ・サラサヤンマ（ヤンマ科） 62・7・12

このうち、カブトゴミムシダマシは、愛知県初記録ではないかと思われます。

## 5 調査の感想

子供の頃から虫が好きで、小学校時代に採集していた場所がなくなるというので、今回調査してみたが、採集の時期、場所などがむつかしく、



カブトゴミムシダマシやたらに歩くだけではだめな（三好町勘生1986・6・22）ことを改ためて知りました。

# 新しくスタートする調査の概要

(運営委員会)

去る3月6日に催された協議会総会において、新しく3種類の調査の実施が承認されました。各の調査も、私達の協議会が今後自然観察会や調査研究を行ううえで、基礎的な資料として重要なものばかりです。その概要は次のとおりで、各調査委員も支部推選等で決まっています。

しかし、これらの調査が成功するかどうかは、会員の皆さんのが、いかに多く参加されるかにかかっています。全会員が1人1か所ずつ調査しても、県下で250地点の調査ができます。是非、御参加くださるようお願いします。

なお、各調査の詳細については、各支部の調査委員にお聞きください。

## ブナ科樹木分布調査

### 1 調査の目的

植生上基本的な樹種であるブナ科樹木の水平分布、垂直分布の状況を調査して、県内の自然の特徴を把握するための基礎資料とする。

### 2 調査期間

昭和63年から64年(2年間)

### 3 調査体制

次のメンバーによるブナ科樹木調査委員会を設置して、調査の企画とりまとめを行う。

△委員長△松尾 初(尾張)

△委員△ (名古屋)佐藤国彦・武田 篤  
(尾張)日比野修・大谷敏和 (知多)相羽福松  
・竹内哲也 (西三河)加納貞夫・安井貞夫  
(東三河)伊東仙治郎 (奥三河)熊谷尚久

### 4 対象樹種

ブナ科樹木全種(人為的に植えたものを除く)

### 5 調査の内容

#### (1) 一般調査

各会員がハイキング、観察会等で見たブナ科樹木についてデータを集めて、メッシュ図としてま

とめる。

#### (2) ポイント調査

会員及びグループ等が特定の場所でブナ科樹木の生育状況を調べる。詳細については後日検討。

#### (3) ライン調査

会員及び調査委員により、山道等に沿って生育するブナ科樹木の状況を調べる。

#### (4) 特定樹種分布調査

会員及び調査委員が一定地域における特定種の分布を調べる。内容は後日検討し、64年度に行う。

## 6 調査の方法

当面は、次により調査を実施する。

#### (1) 会員の調査

会員が行った、①ブナ科樹木の確認、②ポイント調査(方法は調査者の判断で)③ライン調査(方法は調査者の判断で)について、その結果(及び方法)を各支部の連絡員又は調査委員に渡してください。(適宜まとまった段階で)

#### (2) 調査委員の調査

ライン調査を主として、地域を定めて実施する。希望者は調査委員に申し立てください。

## 水生昆虫分布調査

### 1 調査の目的

河川における水生昆虫等の分布を調査することにより、環境指標生物としての水生昆虫の利用方法の確立と各河川の水質汚染の現状の把握をし、今後の水質変化の状況を知るための基礎資料とする。

### 2 調査期間

昭和63年から昭和64年まで(2年間)

### 3 調査体制

次の構成員により水生昆虫調査委員会を設置し会員等が採集した資料を分析し、報告をとりまとめる。

◇委員長◇ (尾張) 北岡明彦  
 ◇地区幹事◇ (名古屋) 鈴木 久 (尾張) 長尾 智  
 (西三河) 早川博康 (東三河) 中島芳彦  
 ◇調査委員◇ (尾張) 大竹 勝・長崎義人・平井  
 直人 (知多) 横原 薫 (西三河) 三田 孝 (奥  
 三河) 藤原優年・村上和彦

#### 4 調査対象

水生昆虫を主として、必要に応じ、他の水生動物も含めるものとする。

#### 5 調査方法

参加者ができるだけ多くするため、次の3種類の調査を行う。

①一般調査……会員等がハイキング・自然観察等に出かけた時、エチルアルコール入りの管瓶又はフィルムケースに水生昆虫を採集(1種1匹とする)し、日時・場所・採集者を記入のうえ、調査委員に渡す。調査委員が同定し、種名及び特徴を採集者に回答するとともに、委員長に報告する。

②専門調査……ベック・ツダタ法により調査を実施し、結果を委員長に報告する。

なお、名古屋市守山区地内の庄内川(下志段味橋下流200m付近)及び新城市豊島地内の豊川(牟呂用水頭取口直下)では、月1回の定点調査を実施する。

③特定調査……対象を特定の種に限定し、分布調査・発生消長調査等を集中的に実施する。63年度は、アミメカゲロウを対象とする。調査の詳細は次号に発表の予定。

#### 6 その他

毎年、尾張地区又は三河地区で研修会を行うとともに、全県一斉水生昆虫調査の日(63年は、11月23日予定)を設けて、知識の向上を目指す。

また、毎年、検討委員会を開催し、資料の確認及びとりまとめ方法を検討する。とりまとめた結果は、協議会ニュース又は協議会総会において、発表する。

### ほ乳類生息分布調査

#### 1 調査の目的

県内の失われゆく自然の中で、ほ乳類がどのように生息分布しているかを、会員の日常活動の中

で調査する。

#### 2 調査期間

昭和63年から昭和65年まで(3年間)

#### 3 調査体制

運営委員会内に、専任の担当委員(東三河支部の神戸敦さん)を設けて、会員からの報告をとりまとめる。

#### 4 調査対象動物

①イノシシ ②キツネ ③タヌキ ④アナグマ  
 ⑤ニホンザル ⑥ハクビシン ⑦リス ⑧ムササビ ⑨ノウサギ ⑩イタチ(チョウセンイタチを含む) ⑪その他

#### 5 調査方法

会員が、日常の自然観察の中で、上記の野生動物を目撃したり、その生活痕(糞・食痕・巣・足跡等)を見つけた時に、別添の調査用紙に概要を記入して、各支部連絡員に送付する。

また、新聞あるいは雑誌において野生動物に関する記事や報告が掲載された時には、切り抜き又はコピーを、同様に支部連絡員に送付する。

#### 6 その他

対象動物毎に、資料がある程度まとまった段階で、協議会ニュースに発表する。

#### 〔記載例〕

ほ乳類生息分布調査表					
		調査者	支部	氏名	
動物名	数量	日 時	場 所	確認方法	備 考
ムササビ	2	S 63・3・18 P M 6・45	豊橋市二川町 普門寺の大杉	目 撃	親子か?
イタチ	1	S 63・3・18 P M 8・00	豊橋市多米町 多米トンネル入口	目 撃	れき死体
ムササビ	1(?)	S 63・3・20 A M 10:00	豊橋市石巻町 石巻神社	生活痕 (食痕と糞)	ツバキの花 サクラの蕾

(注) 確認方法は、①目撃 ②生活痕(糞・食痕・巣・足跡等)における。



## 採取しよう

（名古屋支部 佐野 滋）

乗鞍高原の自然保護センター玄関前には、コンクリートが乾かないうちからクマ・シカ・イノシシ・キツネ・ウサギがソッと覗きにきたように足跡がついており、入館する前から心をはずませる素晴らしい演出がしてあります。

露天風呂に入りながら地元の自然観察指導員が、あの足跡をとるのに幾年もかかったという話を聞き、T・P・Oにより採集が許されるものほどなんなものがあるだろうか。

・木の葉の標本づくり

①押し葉 ②葉拓

・火山岩の分類

①採集許可を確認 ②標本採集現場は写真に撮っておく。

・貝殻の採集

①家に帰ったら、暖かい石けん水でよく洗う ②海藻やこびり付いた汚れは、洗濯用の漂白液に漬ける ③洗ったあとは戸外で陰干しにする

・ありふれた花と珍種

①花を採取する最上の方法は、写真で撮ること

・池の生物の採取と飼育

・鉱物採取

①特別な場所は必要なく、面白そうな岩のあるところならどこでもよい ②洞くつ・道路の切り通し・採石場・峡谷・自然に岩が露出しているところ ③採取したい場所が私有地なら、必ず許可を受ける

・化石を探してみよう

①採取禁止になっている地域があります  
②貴重な発見は、すぐに近くの大学に連絡するか専門家に知らせる

・動物の足跡をとる

①石膏と水を2:1の割合で混ぜたもの

でつくる ②泥に深く残された、でこぼこのある足跡は、溶かしたパラフィンでつくる

・写生によって観察力をみがこう

ゆっくり時間をかけて、自己表現を楽しむ野生での写生は、心に平和を見い出します

等々、満天の星を仰ぎながら語り合いました。

## 自然を好きになるプロセス

（東三河支部 龍崎吉伸）

小中学生を連れて自然観察をしていると、自然の表面的な美しさ（たとえば、花の色や鳥のさえずりなど）には興味を持つが、その興味が自然の上っ面だけを撫でていて、少しも深まっていかないことがよくあります。小生がよく生徒を連れてある葦毛湿原などは、足の踏み入れることはもちろん、植物や動物に手を触れることもできません。生徒たちにとっては、自然は眺めるもので、中に入って楽しんだり、探求したりするものではなくなってしまいます。自然をそっとそのままにとっておこうという配慮は、誰のものでもない自然の中で遊ばせてもらっている私たちにとって欠くべからざるものですが、自然の本当の美しさや大切さ、さらには不思議さを理解する為には、自然に対して、手を出し、五感を使って触れあい、表面からでは見きれない顔のぞき込んで見ることが、どうしても必要だと思います。

子供たちに、本当に自然を好きになってもらうことは、自然がレジャーの対象となり、営利目的の上に乗ろうとしている昨今の中で、「誰のものでも無い」ということの意味を考え、本当に自然を大切にしてもらううえで、大変重要なことだと思います。

葦毛のような貴重な所でなく、身近な所で、興味を持って自然に手を出してもらう方法はないものでしょうか。考えていきたいと思います。

## 名前にこだわる

(名古屋支部 佐藤国彦)

昭和55年に自然観察指導員講習会を受けて以来動植物等の名前に何となくこだわってきた。名前を覚えることは是非ではなく、名前というものが人間にとてどのような意味を持っているかが気になるのである。

講習会では「名前にこだわらない」ことが強調され、それが多くの人の論議を呼んでいるのは、それが自然の見方、自然観にかかわる問題であるためである。名付けること、名前を覚えることは、対象と自己との間にある特定の関係を生じさせることのように思える。名付けることがむつかしく思えるのもそのためである。

名前にこだわっていて、思い浮かんだことのいくつかを次に並べてみよう。

① 名前を知っている植物の中に、1つだけ知らない植物を見た時、それは私にとって仲間はずれのように思えるのではないか。

② もし、ほとんど名前を知らない植物ばかりの

所へ行ったら、そこは私の世界とは別の世界のように思えるのだろうか。

③ カタクリが咲いている所へ来て、「カタクリだな」と思ったとたん、それは今眼の前に咲く一輪の花であることを止めて、カタクリ一般になってしまうのではないか。

④ 茎に毛のあるなしだけでA種とB種に分れる場合、その植物を見る度に毛の有無を確認してみることが、そんなに必要なのだろうか。

⑤ 自然観察会の参加者が「シラサギがいる。」と言う時、それをコサギという名前に訂正するのは良いことだろうか。

⑥ 森を理解するとき、どんな場合でも主な構成樹の名前を知っていないくてはならないだろうか。

⑦ 名前の良さにより、その植物がゆかしく感じたりするのはどうしてだろうか。

次回のリレー投稿は、後藤 春(尾張)、榎原正躬(知多)、三田 孝(東三河)の各氏にお願いします。一般の投稿もお待ちしています。(原稿〆切: 6月20日 北岡明彦まで)

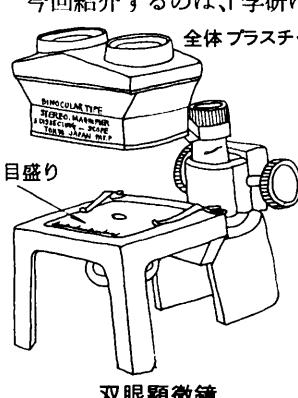
### 観察あれこれ

## 自然観察の小道具

(尾張支部 北岡明彦)

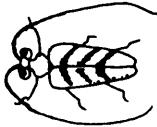
倍の単眼の両方に使えますが、自然観察会では双眼顕微鏡として使うと有効でしょう。特にシロタニガワカゲロウやヘビトンボの鰐の動きのおもしろさ、いろいろな花の構造の複雑さなどを楽しむのに最適だと思われます。

前回紹介した「ライトスコープ」で20倍の世界、この「双眼けんび鏡」で4.5倍の世界そして肉眼の世界の3つを組み合わせれば、私達の自然観察にも、新しい世界が開けてくるでしょう。ただ、こうした器具を使って観察をしていくと、思ったより時間を要します。30分や1時間はすぐ過ぎてしまいますから、観察会のスケジュールに余裕を持たせることが必要となります。それと、順番待ちの参加者への配慮も必要でしょう。



双眼顕微鏡

## 支部だより



長かった冬もやっと終り、各支部の観察会も活発に行われるようになりました。

## 名古屋支部

3月16日(木) 例会「自然保護のための制度」  
何回かおなじみの私こと佐藤が演じますあまり面白くなさそうな題目のためか、参加者は8名と少しでした。しかし、指導員としては自然を守る制度にどんなものがあるかは知っておくとよいと思われます。もっとも今回は勉強不足で、各制度の育った経過とか問題点があまり突っ込んでできなかつたけど、次に機会があれば今度はと、例によって先送りした次第です。

自然保護のための制度といつても、結局は人がやることですから、いくら良い制度でもそれを支える多くの人の力がなくてはダメで、そこに底辺を広げる私たちの地道な活動が必要なのだと想われます。

### 3月27日(日) 針名神社・赤池観察会

「名古屋周辺の自然を見る会」ということで、今年度は地元にどんな自然があるか見ておこうという企画の第1回目です。

針名神社・秋葉山周辺は、コナラ・シイ・アラカシなどの林が残されており、緑地保全地区にも指定されています。春早く木々の芽吹きはまだ少し先といった感じですが、ウグイスが鳴いていたり、ツバメが飛んでいたりと春の気配は十分でした。竹ヤブにはまるまると太ったツグミが、旅立ち近いことを思わせました。民家の庭先にはヒレンジャクも1羽見られました。

荒池は、まだ自然味を残しているため池で、かなりの水鳥がいました。マガモ・コガモ・ハシビロガモ・カワウ・カイツブリ・コサギ等。

荒池からの戻り道は、マツの二次林が多く、ヒサカキ・ネズミモチ・カクレミノ・アラカシ・ネズミサシなどが低木として生えています。今年初めてのモンシロチョウを見たのもこの辺りです。

春の暖かい日射しの中、それでもまだ風は冷たい半日の観察でした。名古屋周辺としては、まと

まって自然が残されている。そんな感じの所です。  
参加者は、少し淋しい5名でした。

(佐藤国彦)

## 尾張支部

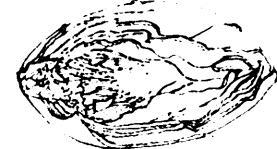
### 2月14日(日) 定光寺月例観察会

寒い中、今月も参加者多く好調。会員15名と子供6名で、最近子供連れが多く気楽な雰囲気が定着しつつあります。正伝池ではカワセミが大サービスしてくれました。

本日のメインイベントは、ムササビの痕跡の発見。定光寺の参道に、ツバキの半分かじられた蕾がバラバラ落ちているのが発見され、最後の糞までみつかりました。



「W」の歯の跡



落ちていたツバキの蕾

その後の夜間観察により2頭のムササビが確認されています。

### 3月13日(日) 善師野月例観察会

先月とはうって変わってポカポカ陽気に、会員15名・会員外6名と子供3名はセーターを脱いでの観察会を楽しみました。今日のテーマは、奈良女子大学津田教室(ベック・津田法を考案された方)出身の丸の内さんを招いて「水生昆虫と水質汚染」。わずか数百mの距離ながら、水質にはかなり差があり、水生昆虫も大きく異なっていました。本日の一番人気は、コバンントビケラ。文字通りコバン形に切り抜いた大小2枚の落葉(主にフジ)を糸でつづり、その中に幼虫が潜んでいました。野鳥も多く、特にハシボソガラスに追われたノスリとオオタカの帆翔は見ごたえがありました。

(北岡明彦)

## 知多支部

### 1月24日(日) 知多支部総会

慣例の親睦度100%の支部総会で、口角泡との比喩までやかないものの、午餐にちょびり潤滑油を入れ、暫し、野外研修16件、室内研修10件等の年間スケジュールの設定及び年度反省におおいに

談議を深めました。支部会員の半数以上の参加がありました。

#### 2月12日(日) 研修会「冬芽のかんさつ」

参加者の感想は次のとおりです。「冬芽を観察しながら名前を見ているうちに、すっかり時間を忘れてしまった。」「芽の断面を実体顕微鏡で観察したら、何か別の世界を感じさせるほどによかった。」「葉の形のおもしろいものがあり、冬芽の様子がこれほど樹種によって違うとは思ってもみなかつた、興味一入の一日でした。」

3月31日(木)

大府市吉田町にて、早朝私にとって本年初のツバメを観察しました。畑の中で、虫をついばみながら翼の手入れをしていました。

(菊池今朝和)

## 西三河支部

#### 3月27日(日) 飯盛山自然観察会

前日の雨がうそのように晴れあがりました。時期からいっても絶好のカタクリ観察日好です。午前9時すぎ、香嵐溪駐車場の横手から飯盛山の登山道に入ってゆきました。キツネノカミソリの若芽が青々としてみずみずしいのが目につきました。水仙の葉に似ていました。そこここに、まだ下を向いてつぼんだままのカタクリの花が見え始めると、いよいよカタクリの群落です。いや、それよりも写真家の群落とでも言うべきでしょうか。早い人は7時半前からやって来て、ここぞと思う場所にカメラを据えているそうです。

三津井先生によると、昔このカタクリの群落のあたりは、ササやアオキが地一面に茂っていたとのことです。しかし、観光客が入るので防火のために下草刈りをしきの枝も刈りあげたところ、それまで細々と生きてきたカタクリが勢いづいて現在の群落を形づくるようになったのだそうです。下草刈りなどにより、森の中のほうまで太陽の光が入り込むようになったためでしょう。また、カタクリの花は陽があたらないと開きません。この群落は飯盛山の北西の斜面にあるため、昼近くにならないと花弁全部が上向きません。写真家の皆さん、本当に御苦労様、でも立入禁止のロープの中に入る不心得者もいました。

それでもカタクリの花の人気はなかなかのもの、うす紫色して可憐に咲くカタクリの花はまさに「早春の花」です。アメリカには、黄色い花をつけるカタクリの種類があるそうです。

参加者25人。指導員10人。中日新聞と朝日新聞に観察会の記事が掲載されたそうです。

他に観察できたもの；キクザキイチゲの花・オオタカ2羽の空中戦・ヤマガラなど。

(浅野真理)

## 東三河支部

#### 2月28日(日) 会員全体会議

東三河支部は、1月17日に総会を開催し、役員選出・行事計画の概要・予算等を審議・決定しましたが、実行段階にはいって、1人でも多くの会員の参加を得る目的で班編成を行い(3班編成)、それぞれの班で責任を持った行事実行計画を樹てるための全体会議を2月28日に開催しました。その結果は次のとおりです。

##### ・自然観察会関係

5月29日 蒲郡市竹島(県委託)……磯の生物と照葉樹林の観察

6月5日 御油の松並木の歴史と音羽川の生物観察(全県一斉)

9月15日 汐川の干潟の生きもの(支部独自)

11月6日 蛇穴附近の自然(支部独自)

##### ・研修会関係

4月24日 乳岩・鳳来湖の自然を尋ねて

8月27~28日(1泊) 茶臼山周辺の自然をたずねて  
(武田孝夫)

#### 小冊子「うさぎ島・さるが島の自然」発行

三河湾に浮かぶ2つの島の、地形・地質・植生等の自然の概要を紹介したガイドブックが発行されました。A5版22頁。この小冊子は会員の岡田速・高瀬和之両氏と西三河支部の協力で完成しました。

希望者は、〒484 犬山市犬山官林26 日本モンキーセンター うさぎ島・さるが島の自然係りまで、370円切手同封で申し込んで下さい。  
(尾張支部 大竹勝)

## 協議会行事報告

総会 3月6日(日)

昭和63年度通常総会は、会員約50名の出席を得て、名古屋市中区錦の第一生命ライフデザインショッピング名古屋で開かれました。最新の設備を備えた真新しい会場で、和気あいあいとした雰囲気の中、ときには真剣さも交じえ、熱心に討議や発表が行われました。

議題の昭和62年度事業報告及び決算報告並びに昭和63年度事業計画案及び予算案に関する質疑等の概要は次のとおりです。

1 62年度決算監査報告（岩崎龍夫監事 名古屋支部）決算報告そのものは妥当だが、次の点で改善を要する。①収入に関して、会費の納入が遅い会員が多いこと、②支出に関して、支部配当金に関する各支部からの報告が遅く、報告の内容が不統一であること。

2 協議会ニュースについて（多和田政彦さん 名古屋支部） 協議会ニュースの発行が遅れた理由は何か。定期に必ず出してもらいたい。

＜答＞ 発行が遅れたのは支部活動報告の集まりが遅かったため。本年度からは編集委員会の体制を強化して定期発行を目指す。

3 水生昆虫分布調査について（朱雀英八郎さん 名古屋支部） 水生昆虫分布調査には、ぜひホタルもとり上げてもらいたい。

＜答＞ 要望に応えるべく努力する。

今回の総会では、総会をより身近なものとし、かつ会員の日頃の活動発表の場として活用するための新しい試みがとり入れられました。そのひとつ指導員活動報告をまず紹介しましょう。この企画は、指導員の支部活動や個人の活動の成果について持ち時間30分程度で発表するもので、当日の発表順にその概略をします。尾張支部を代表して松尾初さんが昨秋の県委託定光寺観察会を題材に、観察会運営の基本的な注意点や観察指導補助具等の活用法を詳しく説明し、大竹勝会長が飛び入りで、雑木林の1年をテーマにした自作の紙芝居？を上演しました。特定の場所の四季の移り変わりを視覚に訴えて解説する巧みな手法に、会場から期せずして拍手がわき起きました。

西三河支部の中西正さんは、ヒガソバナの分布に関する一考察と題して岡崎市東部のヒガソバナの分布と地域住民との関わりについて発表し、最後は尾張支部の北岡明彦さんが、庄内川のアミメカゲロウ大発生観察結果について報告しました。からだ中虫だらけになりながら捕虫網でアミメカゲロウを採取する話など身ぶりも生々しい報告に、思わず取肌を立てて聞き入る会員も……

次は新しい試みその2＝パネル等展示を紹介します。こちらは、会場のロビーをフルに使って会員の幅広い活動の成果が展示され、会員はもとより偶然訪れた人からも賞讃の声が寄せられました。主な展示とその出品者は次のとおりです。

・犬山の自然 大竹会長 尾張支部の善師野月例観察会等の際に撮った動植物や自然景観の写真數十枚で構成されたパネル展示。四季折々の自然の表情に目を見はると同時にこの自然よいつまでもと願わざにはおれぬ迫力ある作品。

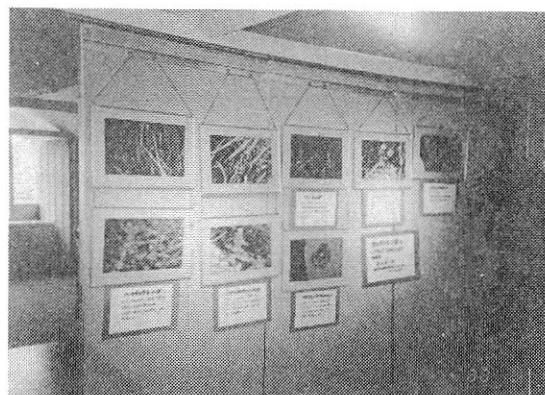
・三好ヶ丘の昆虫 加納貞夫（西三河） 大規模住宅団地予定地周辺の昆虫の標本約250点。特定地域の昆虫相の記録としての意義があるほか、本県に希産の種を含むなど地道な活動の成果が収められている。

・知多支部活動記録 海草の標本、貝殻の標本、半田市におけるみどりの分布・ツバメの巣分布図

・タンボポ分布調査等が展示されました。

・東三河支部活動記録 自然観察マップ6冊、花の写真、研修会等の状況写真等が展示されました。

その他、玉井さんや渡並さんなどの心のこもった写真も多く展示されましたが、紙面の都合で全部紹介できないのが大変残念です。



協議会総会における写真展示

なお、今回特別に松井民憲氏（音羽町在住で非会員）から木の実や葉、小石などを用いたアクセサリーや色紙をお借りして展示することができました。観察会での草木遊びのヒントになると好評を博しました。紙面を借りてお礼申し上げます。

（氏の作品は、三州足助屋敷に常設展示）

この他、今総会にはコーヒー飲み放題などの魅力も加えられ、従来にも増して楽しい総会となりました。これらの企画は、次回以降も続けられる見通しです。

今回欠席したアナタ、残念でしたね！

（名古屋支部 永井利幸）

#### 理事会 2月13日(土)

出席者12名。総会の下見を兼ねて、第一生命ライフデザインショップ名古屋で開かれました。

主な議題は総会の議案作成で、その内容について検討を加えました。そのうち主なものは次のとおりです。

- ・協議会ニュースの出遅れで行事案内が行き届かず、研修会の参加も少なすぎる（大竹）
  - ・10月と11月に県委託観察会が3回あるのは多過ぎるので、日程調整できないか（岩崎）
  - ・全国一斉観察会は、市町村主催行事への指導員派遣にしてはどうか（石川）
  - ・新しい調査を始める前に、今まで実施してきた調査のまとめをニュースか何かで報告して欲しい（大竹）
  - ・会費納入が大幅に遅れているので、何とか会員の皆さんに払って欲しい（事務局）
- これらの詳細については、運営委員会で検討することになりました。 （北岡明彦）

#### 運営委員会 3月19日(土)

本年度最初の運営委員会ということで、自然観察会、研修会など年間の行事について検討しました。出席者10名。

全県一斉自然観察会（6月5日）は、どうせ同じ日に6か所で行うなら、野鳥とか花などの簡単な調査を行ってみようということにしました。詳細は次回の運営委員会で検討します。

また、運営委員会では今年度自然観察会の運営

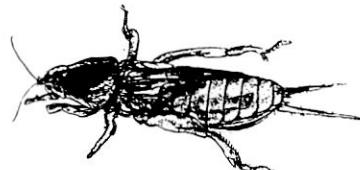
とか森林の総合的な調査の仕方などについてもまとめていきたいと考えています。結果は各支部へ送付しますが、希望者にも配布します。

（佐藤国彦）

#### 編集委員会 3月6日(日)

出席者7名。協議会総会後に63年度第1回の編集委員会を開催して、協議会ニュースの年間発行スケジュールと内容を検討しました。今年度の最重要課題は、年4回の定期発行（4月・7月・10月・1月）とし、協議会や支部の観察会を全会員に事前にお知らせするニュース性を第一義にしました。また、「支部だより」のコーナーをできるだけ充実することにしましたので、各支部でおもしろい話題がありましたら、是非支部編集委員に御連絡ください。

（北岡明彦）



ケラ

（画：渡並喜一郎）

#### おたよりコーナー新設！

次回の協議会ニュース22号から、新しく「おたよりコーナー」を設けます。このコーナーは、広く会員の皆さんから、日頃感じこと自然観察をしていて新しく発見したことや失敗したこと、協議会の活動への意見、協議会ニュースへの要望などを、誌上に掲載するものです。どんなことでも葉書き1枚程度にまとめて、気楽に編集局まで送ってください。イラスト入りでも結構です。

お待ちしています!!

（送付先） 編集事務局 北岡明彦

〒489 瀬戸市原山町1-6県職住宅3-401

## 行 事 案 内

5・5(祝) 协議会 植生研修会PartⅡ 森林公園植物園内展示館(尾張旭市) 10:00 申し込みは各支部連絡員まで
5・8(日) 尾張支部 月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00
5・15(日) 名古屋支部 一般公募観察会 相生小学校東門(天白区) 10:00
5・22(日) 尾張支部 犬山市主催観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 10:00
5・29(日) 東三河支部 県委託観察会 竹島橋入口(蒲郡市) 9:30
6・5(日) 協議会 環境週間全県一斉観察会 名古屋支部 平和公園(千種区) 尾張支部 光明寺緑地(一宮市) 知多支部 半田市空の科学館(半田市) 西三河支部 洲原公園(刈谷市) 東三河支部 御油松並木(豊川市) 奥三河支部 桜淵公園(新城市) 全支部10:00集合
6・12(日) 尾張支部 月例観察会 JR定光寺駅前(瀬戸市) 9:00 湿地の植物の観察
6・18(土)~19(日) 協議会 観察研修会 天生湿原(岐阜県吉城郡) 申し込みは各支部連絡員まで
7・10(日) 尾張支部 月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00
7・17(日) 知多支部 キノコ観察会 武豊町中央公民館前 9:00
7・24(日) 知多支部 川の生物観察会 阿久比町中央公民館前 8:30
7・31(日) 奥三河支部 県委託観察会 鳳来寺山自然科学博物館 10:30

### <会員移動>

○脱退

千種雄一、千種仁美(栃木へ転出)  
村松 武(飯田へ転出)

## お 知 ら せ

### ◎ 協議会の講座研修及び視察研修について

行事案内にありますように、5月5日(祝)10時から尾張旭市の森林公園にて植生研修PartⅡを、植物研究家落合圭次さんを講師に招いて開催します。昨年8月に岡崎市で実施したPartⅠに統いて行うものです。

また、6月18日(土)~19日(日)にかけて岐阜県吉城郡川合村の天生湿原と周辺のブナ林を中心に行います。天生湿原は北方系植物ホロムイソウの南限自生地及びミズバショウ群生地として貴重なものです。周辺に広がるブナ林は裏日本系の植物を多く含み、愛知県内で見られる表日本型ブナ林とはかなり趣を異にしています。

会員の皆さん御参加をお待ちしております。なお、申し込みは下記の各支部連絡員で受けつけます。

### ◎ 63年度各支部連絡役員の紹介

上述の研修会の参加申し込み及び新たに始まる調査表・調査資料の送付先となります各支部連絡は次のとおりです。

・名古屋 国枝利満	・尾張 伏屋光信
・知多 降幡光宏	・西三河 水富富人
・東三河 鈴木友之	・奥三河 杉山 茂

### 〔編集後記〕

本号より編集委員が大幅に入れかわり、協議会ニュースの誌面もいくらか変化しましたが、いかがでしょうか。「観察と研究」は内容の幅を広げるため「マイウォッキング」と改称し、新たに「季節の話題」を設けました。

定期発行を目指して編集委員一同頑張りますので、会員の皆さんもどしどし投稿して下さるようお願いします。(北岡)

編集事務局：瀬戸市原山町1-6 県職住宅  
3棟401号 北岡明彦